

富山県立 近代美術館 常設展示室I



所在地：富山県富山市西中野町1-16-12
常設展示室Iの面積：1,296m²
構造・規模：鉄骨コンクリート造、2階建
照明更新完成：平成21年11月

富山市の中心部に近い城南公園に建つ「富山県立近代美術館」。
常設展示室IのダウンライトがLED照明に更新され、
大幅な省エネ、CO₂削減はもちろん熱放射も少ないため、美術品保護に役立っています。

20世紀初頭から現在に至る美術の流れを展望する富山県を代表する文化施設

富山県を代表する文化施設として、1981年の開館以来多くの人びとに親しまれている「富山県立近代美術館」。20世紀初頭から現在に至る美術の流れを、世界・日本・富山の3つの視点から展望した美術との新鮮な出会いの場を展開しています。

常設展示室Iでは、20世紀前半のピカソやロートレック、ルオー、シャガールからシュールレアリズム、戦後の抽象美術までの流れを約100点の作品によって概観できるように展示。この展示室の局部照明は、これまでは100W白熱灯ダウンライトにより行われていましたが、今回、地球環境保全と展示視環境の向上を図るため、地域のエコ活動を支援するプリウス・エコ基金（富山トヨタ自動車の寄付金）を活用し、LED照明にリニューアルされました。

常設展示室のダウンライトをLED照明に更新し、大幅な省エネ・CO₂削減のほか、美術品保護に貢献

常設展示室Iの照明は、ベース照明に32W Hf蛍光灯4灯用埋込器具（ルーバ付）と局部照明に100W白熱灯ダウンライトが使用されていましたが、今回、このうち局部照明の100W白熱灯ダウンライト72台を「イー・コア」LEDダウンライト900シリーズに全てを更新。環境性能に優れ、白熱灯器具100Wの明るさを消費電力13.3Wで実現しています。また、省エネ・CO₂排出量とも85%以上（更新前比）が削減されるほか、電球色の演色性重視タイプ（平均演色評価数Ra 92）の使用で展示物のもつ自然の色合いを忠実に再現するとともに、器具には、小形複合反射板及び高拡散シートを組み合わせてあり、さらに円形バツフルを取り付けて眩しさを低減し、かつ色むらをより軽減しています。展示物に対しては、熱放射が少ないため、品質を損なうことなく、変退色や損傷保護にも役立っています。また、管理者側にとっては、40000時間の長寿命によるランプ交換の手間を大幅に軽減すると同時に、メンテナンス費用の削減が実現されています。



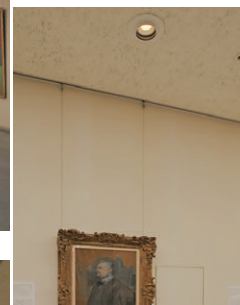
20世紀美術の流れを時代を追った5つのコーナーで概観できる「常設I」。バツフル付のLEDダウンライト900シリーズを採用



壁際のダウンライトを全てLEDダウンライトに更新



LEDダウンライト 900シリーズ
円形バツフル付



LEDダウンライトの使用で、美術品の劣化をおさえる



円形バツフルを使用して壁面にとどく無駄な光をカットしている



円形バツフルにより眩しさを低減

主な照明器具一覧				
設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
常設展示室I	LEDダウンライト(特注円形バツフル付)	LEDD-70002NL-LS8	72	LED 消費電力：13.3W